



暮らしを守る開かれた県政を 辻 義則氏と選挙協定



「県民本位の滋賀民主県政をつくる会」は、7月2日執行の知事選挙で滋賀労連議長(前県職員組合委員長)を先頭にごんばれることを発表しました。新幹線新駅への負担など無駄な開発をすすめながら、県民には犠牲と負担を押し付ける県政を変え、県民が主人公の民主県政の実現が問われる選挙となります。

民主県政をつくる会と辻義則さんは、「開かれた県政」へ、次の政策を発表しました。

- 県民の暮らしを応援し、しっかりサポートします
- どの子にも「ゆっくり・しっかり」教育を実現し、子どもたちの瞳が輝く、滋賀をつくります
- 障害のある人も、お年よりも、みんなが大事にされる「ゆきとどいた、あったか福祉の滋賀」を実現します
- 豊かな水と緑に包まれた湖国、心やすらぐ湖国をつくります。
- 新幹線新駅の建設をキッパリ中止し、ムダと浪費をなくし、財政再建をすすめ、市・町と仲良く強調する県政を進めます



3月定例議会
24日終了。

新幹線新駅負担や議員の報酬引き上げこそやめるべきです

予算は市民の暮らし優先に

新年度の市予算を中心に審議する3月定例市議会は、24日終了しました。日本共産党野洲市議団(小菅六雄・野並享子市議)は、暮らしを守る市民本位の市政実現へがんばりました。

ムダを放置し、市民には負担強化の市予算

小泉内閣が増税と社会保障の切り捨てをすすめるなか、市民の暮らしを守る市予算が求められています。

ところが、多くの市民が、「ムダで必要ない」という新幹線栗東新駅への負担金(2億6900万円、H18年度分=1200万円を計上)や市長・議員の給与・報酬引き上げ(議員1ヶ月9万円引き上げ、24名で年間合計額3330万円)また、同和関係予算を「聖域」にしながら、その一方で、国保税・介護保険分や65歳以上の介護保険料の大幅な値上げで市民負担を強化しています。

このような市民犠牲の予算案は、24日の本会議で、豊政会議員(保守系自民党会派)らの賛成で決まりました。

市長、中学校卒業までの医療費無料化に言及

山崎市長は、今定例議会で子どもの医療費無料化の拡大に言及しました。「義務教育期間中の子育て支援で、医療費無料化(入院)を中学校卒業までを研究したい」主旨の答弁です。

これまで、旧中主町や野洲町で、住民の世論と運動や、一貫して町議会のなかで要求する中、全県的にも早い段階で就学前の無料化を実現してきました。昨年12月市議会でも、「子育て支援の充実とまちづくりの立場から、小学校卒業までの無料化実施を」要求していました。

今回、市長が、中学校卒業までの無料化拡大(入院)を言及したことは、市民にとって朗報です。日本共産党は、市民のみなさんと実現にむけ、引き続き、がんばります。



やす民報

日本共産党野洲市委員会
2006年3月26日 76

暮らしのご相談、ご要望
お寄せください

市議員 小菅六雄 (電話) 589-4971 (FAX) 589-6184
(メール) shgdy177@ybb.ne.jp (HP) http://www.yasusigi.net/~kosuga/

市議員 野並享子 (電話) 587-0985 (FAX) 586-1102
(メール) s_k_nonami@yahoo.co.jp (HP) http://www.yasusigi.net/~nonami/